

# ほたる

令和5年4月10日発行

## 目指す児童生徒像

- すすんで学び、考える子ども
- みんなとなかよくする子ども
- 明るく元気な子ども
- 自分のことは自分でする子ども

## 最大の挑戦

校長 安齋 善和

桜の開花を伝える便りが例年よりずいぶん早く全国より届き、ここ東北・宮城の地でもいつもより早い春本番を迎えました。これから栗駒山の残雪が少しずつ消えていき、やがてアメンボや蛙が校舎周りに姿を見せることでしょうか。田んぼに水が張られ、稲の生長と共に風景に彩りを添えていくことでしょう。今年度も、栗原の美しい四季の移ろいをめでながら、子どもたちの成長を本校教職員や保護者の皆様と共に見守って参ります。

さて、本日入学式が行われ、小学部3名、中学部2名、高等部13名の新入生が仲間入りしました。小学部への編入児童1名、新たに本校勤務となる教職員9名を加えて、児童生徒51名、教職員53名体制でいよいよ新年度のスタートです。新年度の学校は、教職員にとっても児童生徒にとっても新たな出会いに満ちています。コロナ禍の影響で私たちの生活様式は一変しましたが、そうした中でも学校での掛け替えのない出会いを大切にしていきたいと考えています。

平成19年、東京大学入学式では同大学で教鞭を執る全盲ろう者・福島智准教授（現教授）が式辞を述べました。式辞では人と人が交流することのはかなさについて触れ、「健常者と全盲ろう者との間には、様々な相違点があり、大きな距離が開いているように感じるかもしれません。しかし、人は皆、直接、他者の本質を把握することはできないのです。できるのは、互いの魂にそっと触れ合うことだけです。そうであればなおのこと、互いに触れ合うことを大切にいきましょう。」と語り掛けていました。その上で、出会いを大切に人間関係を維持・発展させていく営みこそが私たちにとって最大の挑戦であると結んでいます。

学び舎は、様々な個性を持つ掛け替えのない子どもたちが、同じく様々な専門分野で学んできた教職員と共に、あらゆる機会を通して学び合う場です。福島先生の言葉通り、子どもたちには学校生活を通して出会った人たちとの関わりの中で、その絆を深め、成長すべく挑戦し続けてもらいたいものです。私もこの学び舎で子どもたちにそっと寄り添い、心の交流を図ることで多くを感じ成長していきたいと思います。児童生徒の皆さん、保護者・御家族の皆様、関係各位の皆様、今年度もどうぞよろしくお願いたします。

## 4月の主な行事予定

- |                             |                       |
|-----------------------------|-----------------------|
| 10日(月) 着任式・始業式(11時30分下校)入学式 | 22日(土) 授業参観(11時30分下校) |
| 11日(火) 運転手さんと乗務員さんを紹介する会    | PTA総会・役員会①            |
| 12日(水) 全体朝会(新入生を紹介する会)      | 24日(月) 振替休業日          |
| 20日(木) 交通安全教室               | 26日(水)～5月2日(火) 教育相談期間 |